

# オガサワラカワラヒワ 域外保全のための 向島から母島へのメジロ 移送試験

委託者：東京都小笠原支庁  
受託者：（一社）Islands care

# 実施内容

## 背景

- 生息域内個体群増強に資する生息域外個体群の形成
- 属島（向島）でオガヒワファウンダー捕獲を実施予定
- 母島列島において属島からの小型希少鳥類移送事例がない

## 目的

- 向島から母島への移送技術確立

## 実施内容

- オガヒワと同サイズのメジロを、向島から母島へ安全に移送ができるか検証
- 移送したメジロが安定した状態で、餌付け、初期飼育、放鳥ができるか検証

# 実施日、人員

## 実施日

移送試験：6月25日、6月26日、7月1日、7月2日

## 人員

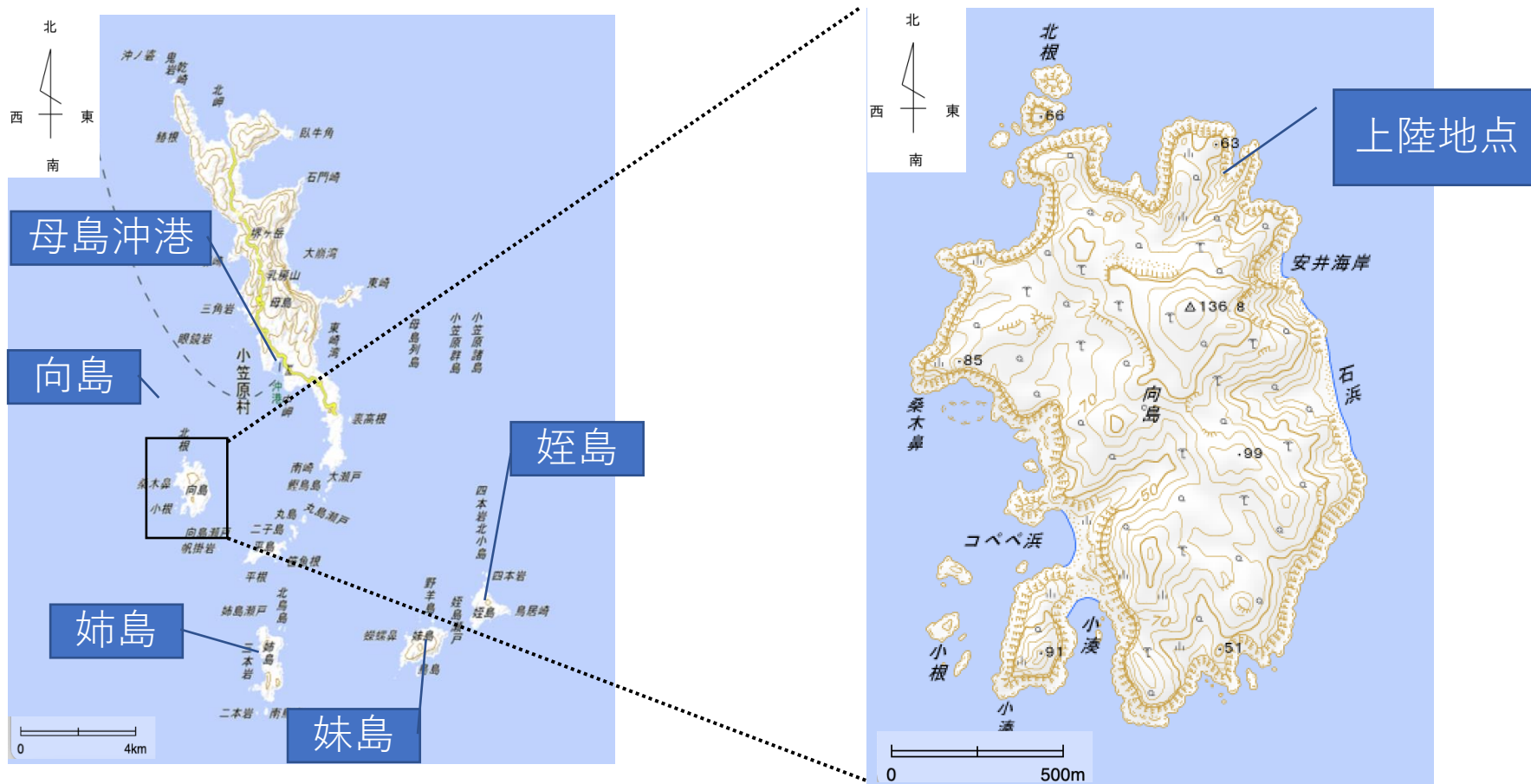
作業者	人数	役割	配置場所
捕獲従事者 <sup>※1</sup>	1名	対象種の捕獲作業実施	捕獲地点
捕獲助手	2名	捕獲者の助手	捕獲地点
移送員 <sup>※2</sup>	3名	捕獲地点から傭船までの移送	捕獲地点、上陸地点、傭船
統括飼育従事者 <sup>※3</sup>	1名	対象種の餌付けや初期飼育	傭船
飼育助手	1名	飼育作業助手	傭船
傭船	1隻	属島から母島への輸送	

※1 捕獲従事者は、林野庁業務「令和4年度小笠原希少鳥類保護管理対策調査」にて標識調査のための捕獲作業に従事し、オガサワラカワラヒワの取り扱いに精通したものを配置した。

※2 移送員3名のうち2名は東京都自然保護指導員を配置した。

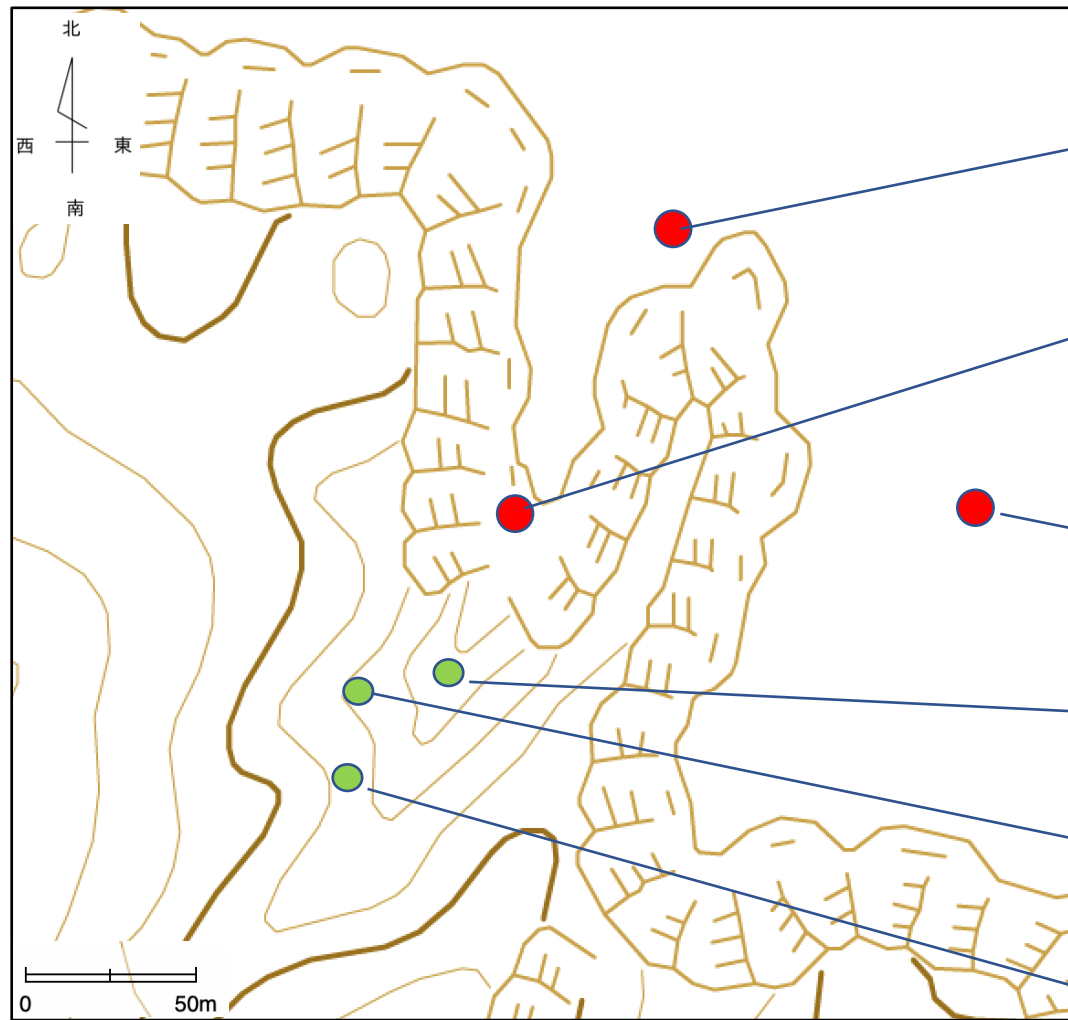
※3 統括飼育従事者は小笠原諸島に生息する国内稀少野生動植物種に指定された鳥類の生息域外保全（飼育繁殖）に5年以上従事した経験があり、鳥類の飼育に精通した技術者を配置した。

# 実施場所①：向島



母島沖港から約15分の距離  
姉島、妹島、姪島よりも海況の影響を受けづらい

# 実施場所②：作業位置図



カヤック乗り  
込み位置

上陸地点

備船待機位置

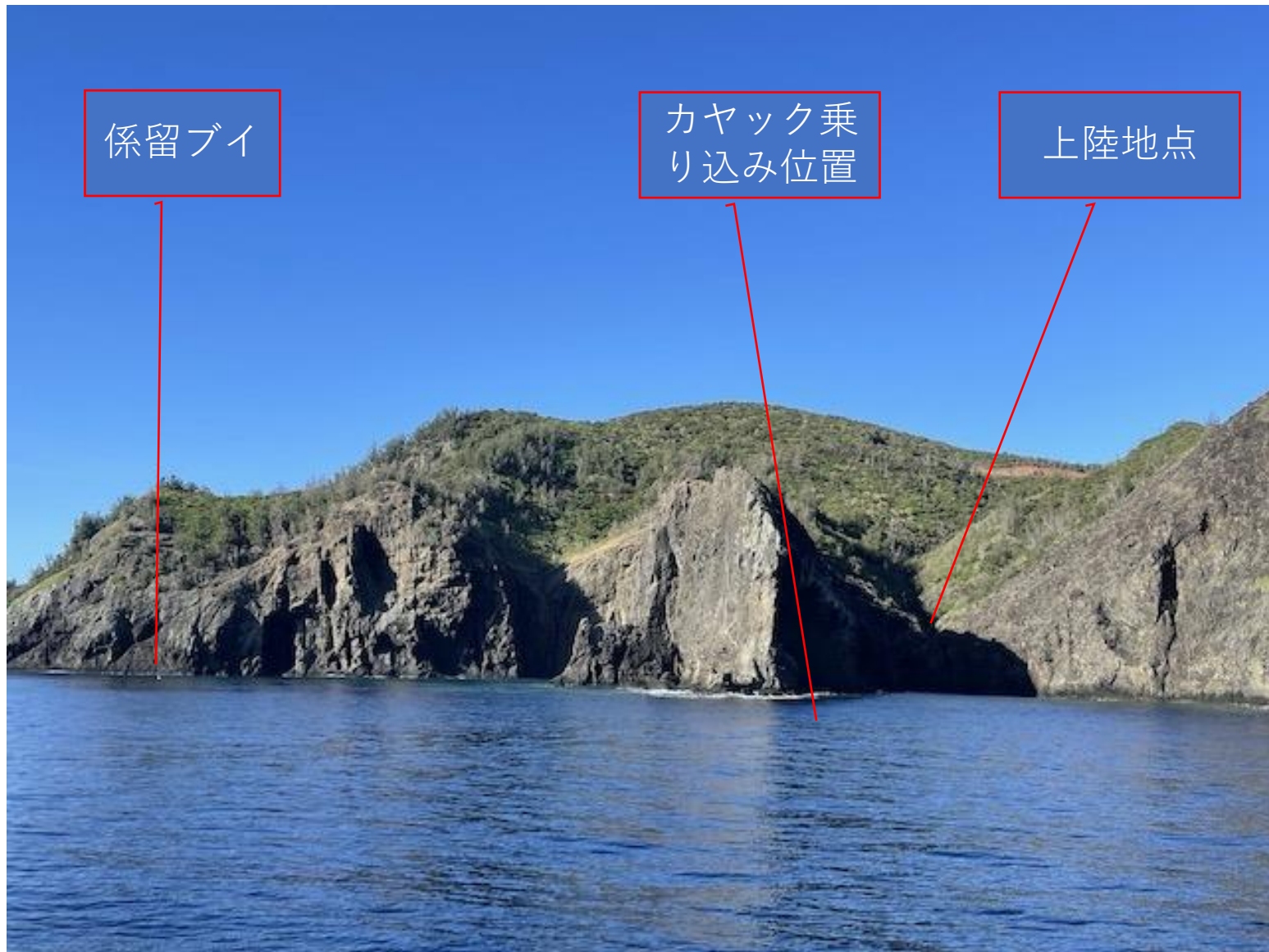
捕獲地点①

捕獲地点②

捕獲地点③

上陸地点から捕獲地点まで徒歩5分

# 上陸地点（遠景）



# 上陸地点（近景）



上陸時、捕獲個体移送時の利便性のためにはしごを設置

# 行程：捕獲地点→一時飼育施設 合計所要時間約44分

行程1

捕獲  
紙袋収納

行程2

上陸地点へ  
移送

3分

行程3

鳥籠収納

3分

行程4

カヤック  
へ移送

2分

行程5

備船へ移送

1分

行程6

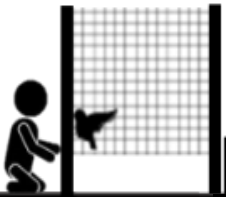
母島へ移送

15分

行程7

一時飼育  
施設へ移送

10分





# 行程1：捕獲



人員：捕獲従事者、捕獲助手  
かすみ網からとり外し、速やかに紙袋に収納  
紙袋内では鳥が動けない、暴れない

## 行程2：捕獲地点→上陸地点（3分）

捕獲個体



人員：移送員 1 名

両手を開けるために、紙袋は首からぶら下げた

# 行程3：上陸地点で鳥籠に収納（3分）



人員：統括飼育従事者、移送員×1  
鳥籠に収納したのちに白布で包む  
鳥は、白布をかければ外が見えなくなり落ち着く。

# 行程4：上陸地点→カヤック（2分）



人員：統括飼育従事者、移送員×2  
防水バックへ鳥籠を収納  
背負ってカヤックへ移送

# 行程5：カヤック→傭船（1分）



人員：統括飼育従事者、移送員×1  
前部座席の者が防水バックを保持  
後部座席の者が操縦

# 行程6：向島→母島（15分）



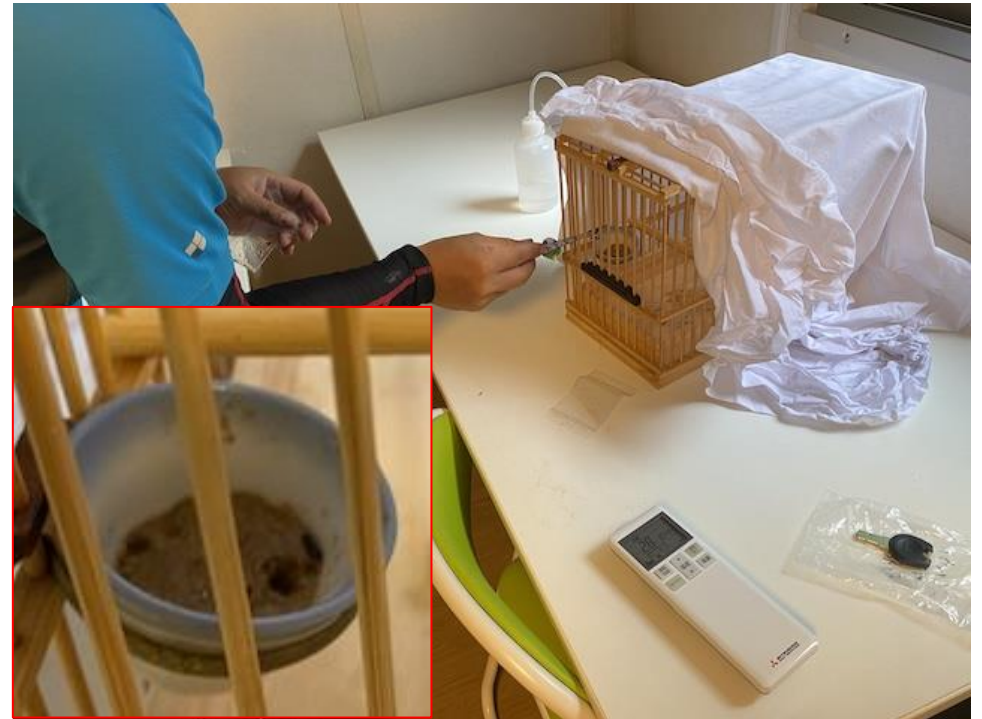
人員：統括飼育従事者、飼育助手  
船上では、直射日光が当たらない安定した場所に置き、水とスリ餌を与える

# 行程7：港→一時飼育施設（10分）



人員：統括飼育従事者、飼育助手  
所要時間：約10分  
車両の後部座席に置く

# 一時飼育施設到着、飼育開始



10 : 35 : 一時飼育施設到着、船上で与えた水が飲まれていた施設内の照明をつけ、白布をかけて安置

14 : 00 : スリ餌の摂餌を確認

17 : 00 : スリ餌の糞を確認、想定通りに餌付けが進行以降は室内の照明を消す



# 捕獲翌日



餌を食べ、水を飲み、糞をしているのを確認  
体が汚れておらず安定した状態

# 行程：一時飼育施設→放鳥 所要時間：約29分

行程1

一時飼育  
施設出発

行程2

港へ移送

10分

行程3

向島上陸地点  
沖合へ移送

15分

行程4

上陸地点へ  
移送

1分

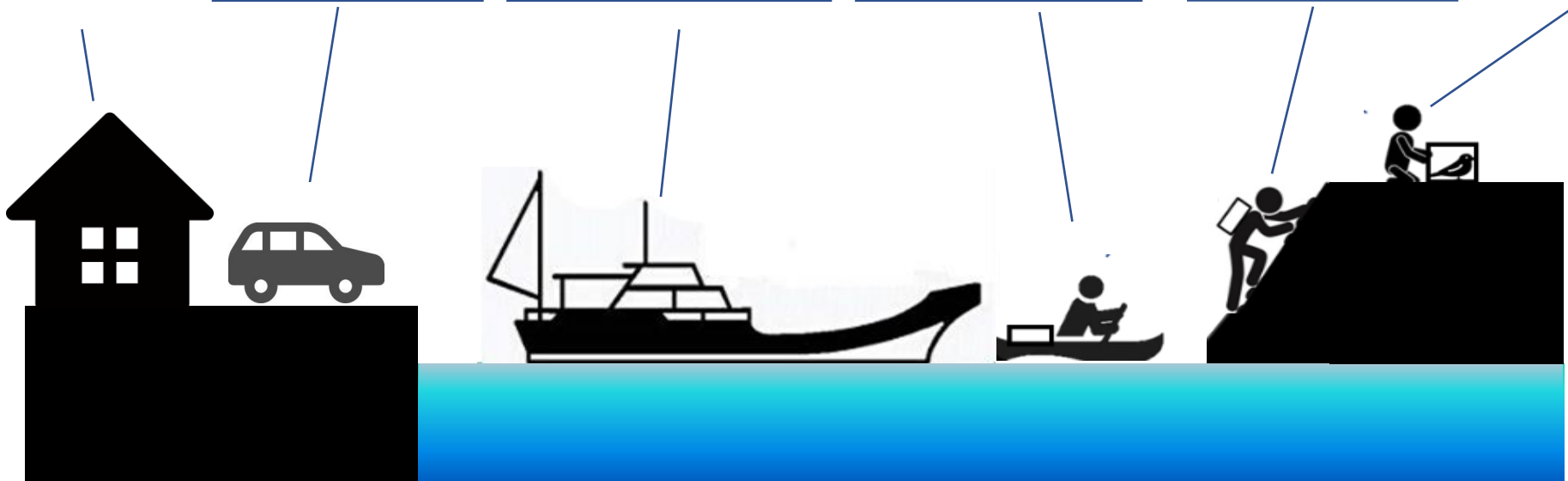
行程5

放鳥地点へ  
移送

3分

行程6

放鳥



# 放鳥（捕獲後約24時間）



扉を開けたらすぐに飛び去り、崖上まで飛翔したのを確認  
→ 体調に問題は無い

# 結果

## 標的種の捕獲に長時間要した

- 移送試験実施3日間において捕獲されたメジロは7/1の1羽のみ、捕獲に要する時間は予想できない

## 移送時間

- 向島捕獲地点→母島一時飼育施設は問題なく進行すれば約40分

## 捕獲個体の安定性

- 餌付け初期飼育は想定通りに進行し、全行程において捕獲個体に異常は見られなかった→移送技術確立に目処

# 課題、改善点（捕獲）

**3日間で捕獲されたオガヒワは6/25の4羽（幼鳥1羽）**

- ・ファウンダー捕獲時には余裕がある日程設定が必要

## 捕獲の効率化

- ・ 餌、人工水場による誘引を検討

# 課題、改善点（移送）



6/25 上陸地点にタープを設置し待機場所とした  
6/26 落石発生、当地での待機を取りやめた



7/1 メジロを備船移送後スコールに遭遇タープの下で凌いだ

## 向島に安全な待機場所が無い、天候リスク回避

- 捕獲個体は速やかに母島へ移送
- 安定した環境下で初期飼育を実施

## 船上でのエンジンの振動対策

- 防震材の導入の検討